

2025年度

# すくわくプログラム 1年間の活動記録

～ テーマ：食物～

## 1年間の活動内容

- 9月カイワレ大根栽培始まり
- 10月カボチャの種に触れてみて数を数えてみよう
- 11月果物の色に触れる
- 12月ジュース作り 量を知る
- 1月餅作り
- 2月振り返り
- 3月たたき染め

散歩中に種を見つけたり、野菜栽培に取り組んだりする中で、野菜の種類や名前に興味を持ち始めていたクラスでした。園内での活動が中心となる環境でしたので、身近な食材を通して体験を積み重ねることが、子どもの関心を深めることにつながると考えました。

また、少人数のクラスであることから、一人ひとりが実際に食材に触れられる環境を整えることができました。そこで自分の手で触る、つぶす、すりおろすといった体験を通して、素材の違いや変化をじっくり感じられる活動が可能であるとおもい、テーマ「食物」に設定しました。

「育てる」「触れる」「つぶす」「比べる」「変化を楽しむ」といった流れで、食材を色々な角度で探究してきました。導入ではカイワレ大根の栽培を行い、種から芽が出て伸びていく様子を観察しました。芽の伸びをクレヨンで下から上へ線で表現する姿も見られ、食物の成長を自分なりに捉え、表現しようとする姿がありました。水耕栽培がうまくいかず腐ってしまう経験もありましたが、子ども達には「なぜうまくいかなかったのか」と変化に目を向ける機会となりました。

その後、かぼちゃの種を取り出して数を数えたり、果物をすりつぶして色の変化を楽しんだりする活動へと発展しました。子ども達は、触った感触や匂いの違いに気づき、「色が出てきた」「もっと出るかな」と友だちと共有する姿が見られました。

ジュース作りでは量に着目し、絞り方や分量による違いを体験しました。また、米ともち米を見比べ、練ることで粘り気の違いに気づくなど、素材の性質を比較する探究へと広がりました。

カイワレの栽培では、「今日、芽でてるかな?」「伸びてきたよ」と、日々の変化を楽しみに観察しており、暗くしていた紙を外した際には、「くさいよね」「なんか虫が来たみたい」と蒸れた匂いを自分なりの言葉で表現していました。

三つの水耕栽培を並べて比べる中で、「こっちは起きてないね」「まだ眠いんだよ」と芽の状態を擬人化し、「起きてー」「朝だよー」と声をかける姿も見られました。保育者はすぐに正解を伝えるのではなく、「どうしてかな?」と問いかけることで、子ども同士が考えを伝え合う時間を大切にしました。

高い位置に置いていた栽培容器を見て、「せんせい、早く開けてみようよ」「にょろにょろしているかもよ」と想像を膨らませる声もありました。枯れてしまった後、土壌フランターで育ったカイワレを収穫した際には、「しっぽみたいのがついてきた」と根を表現していて、目に見えない部分にも気づきを広げていました。

また、果物をすりつぶす活動では、「もっと色出るかな」「いっぱいやったら出てきたよ」と量や力加減の違いを友だちと共有する姿が見られ、米ともち米の活動では「こっちはかたい」「ねばねばしてる」と素材の違いを言葉で伝え合う場面もありました。

活動を通して、子どもたちは五感で感じたことを自分なりの言葉で表現し、友だちと共有しながら理解を深めていきました。